

公開・非公開の別

■公開 □部分公開

□非公開

## 令和4年度 第1回浜松市医療的ケア児等支援協議会

## 会 議 録

1 開催日時 令和4年7月22日(金) 午後2時から午後3時20分

2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター 会議室A・B

## 3 出席状況

委員氏名	所属	備考
福田 冬季子	浜松医科大学	
宮谷 恵	聖隷クリストファー大学	Zoom 参加
遠藤 雄策	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	
大木 茂	総合病院 聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター新生児科	Zoom 参加
尾田 優美子	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	Zoom 参加
岡崎 貴宏	介護療院 有玉病院	Zoom 参加
沖村 宏美	聖隷おおぞら療育センター	
里 あゆ子	浜松地区肢体不自由児親の会	Zoom 参加
清水 恵美	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	Zoom 参加
藤川 晴海	浜松市中障がい者相談支援センター	
古橋 清史	相談支援事業所くすのき	
雨宮 寛	浜松市障がい者基幹相談支援センター	
稲川 秀子	学校教育部 指導課	
櫻井 利幸	学校教育部 指導課	
井川 宜彦	こども家庭部 幼児教育・保育課	
宮木 典子	こども家庭部 子育て支援課	ZOOM 参加
島 和之	健康福祉部 健康医療課	
平野 由利子	健康福祉部 健康増進課	
久保田 尚宏	健康福祉部 障害保健福祉課 (事務局)	
仲井 俊二	健康福祉部 障害保健福祉課 (事務局)	
柴田 多美子	健康福祉部 障害保健福祉課 (事務局)	
中尾 聡子	健康福祉部 障害保健福祉課 (事務局)	
阿部 祥美	浜松市社会福祉事業団 相談支援事業所シグナル (事務局)	
尾関 ゆかり	浜松市社会福祉事業団 相談支援事業所シグナル (事務局)	

4 傍 聴 者 なし

5 議 事 内 容

- 1 医療的ケア児等支援コーディネーター活動実績報告
- 2 全数把握調査について
- 3 令和3年度実施医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会報告
- 4 医療的ケア児等災害ワーキング中間報告
- 5 その他

6 会議録作成者 浜松市障害保健福祉課 生活・就労支援グループ 中尾

7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無

8 会 議 記 録

開会 会長及び副会長選出

会長：遠藤 雄策委員 副会長：雨宮 寛委員

1 医療的ケア児等支援コーディネーター活動実績報告

資料に基づき事務局から説明

【委員からの意見】

(大木委員)

- ・医療的ケアが自立している方とはどういう方を指すのか。

(事務局)

導尿等自分でできる方、インスリン自己注射が管理できている方。

(岡崎委員)

- ・コーディネーターは何人いるのか。コロナの流行などバックアップ体制の検討を。

(事務局)

1人工で受託しており基本的には1人で動いているが、4人つけている。医療職や福祉職など、複数の職種の方をつけていただいている状況。

(福田委員)

- ・災害時個別支援計画の内容はどのようなものか。どのように災害時に利用するのか。

(事務局)

計画相談が作成する。何人暮らしか、何回建てか、避難予定場所、移動手段の内容が含まれる。災害時個別支援計画を見ることで、1日をどう過ごしているのかわかる内容となっている。医療機関や訪問看護、計画相談など連携機関を含む。医療的ケアに必要な人工呼吸器のメーカーや1日の使用時間、バッテリーの持ち時間、予備ボンベの有無なども含まれる。

(福田委員)

- ・紙ベースでの格納か？その保管方法についても検討を。

(事務局)

紙ベースでの保管状況となっている。

## 2 医療的ケア児等全数把握調査について

資料に基づき事務局から説明

### 【委員からの意見】

(遠藤委員)

- ・人工呼吸器の内訳について、24時間必要か、侵襲的人工呼吸器なのか非侵襲的人工呼吸器なのかわかるように把握した方が良いのではないかと。同意書の更新については、変わったら変わったところだけ同意者が更新できるような方法の検討を。

(事務局)

検討していく。

(遠藤委員)

- ・安否確認システム登録同意者数について、登録したくない表示なのか、不安があって登録しないのか、登録同意のための条件がわかれば同意してもらいやすいのでは。なるべく多くの方に同意いただけると良い。

(遠藤委員)

- ・学校から搬送されるケースがあり、親がいなくて医療情報が共有できず対応できないことがある。安否確認システムの中で共有できるか。

(事務局)

安否確認システムでは、そこまでの情報は入れていない。情報を載せることに不安がある方もあり、人工呼吸器を使っている、酸素を使っている、といった情報くらいにしている。

(遠藤委員)

- ・全数把握調査をしているので、調査の有効活用する方法として情報共有のしくみを考えられたら良い。

(大木委員)

- ・登録については、インフォメーションができていない可能性もあり、どこかで個別の念押しができる方が良いのではないかと。

(雨宮委員)

- ・安否確認システムについて、最終的にどういう形までもっていくのか。対象者の登録を進めているとは思いますが、支援者側の登録や福祉避難所の登録という話が出ているが、どれくらいのスパンで考えているのか。

(事務局)

災害は待ってくれないので、なるべく早くとは考えているが、進捗としては遅い状況。

(雨宮委員)

- ・安否確認までを目指すのか、安否確認してその先の支援をしていくのか、どこを目指すのかを明確にした方が良い。

(大木先生)

- ・ゴールは安否確認から避難所への誘導までだろう。東日本大震災で車中泊は11%だった。車中泊になると、ケアの質が下がることはもちろん、行政が把握できなくなる。必要な支援が届かなくなる。車中泊をなくして、自宅避難、もしくは避難所への避難になるようにして、そこに必要な支援が届くようにというところを目標にしたい。

### 3 医療的ケア児等を持つ保護者への意見を伺う会報告

資料に基づき事務局より説明

【委員からの意見】なし

### 4 医療的ケア児等災害ワーキング中間報告

資料に基づき事務局より説明

【委員からの意見】

(稲川委員代理)

- ・学校にいるときに被災すると学校に留まることになる。保護者がお迎えに来れず、看護師がいない状況になると、導尿の児童は4時間以上空けないようにしないといけないが、避難所に行けばトリアージを受けて対応してもらえるのか。

(事務局)

現在は、在宅時の支援を考えているが、通学先においても支援の方法や仕組みを考えていく必要があるとは考えている。必要に応じてワーキングに参加していただきたい。

(福田委員)

- ・福祉避難所には、自家発電があるかと思うが、現状、避難所から福祉避難所に行くことになるようだが、医療と福祉避難所との連携はどのように考えているか、フローがあると良い。

(事務局)

避難所でトリアージを受けてから福祉避難所へ行くことになる。福祉避難所でどのような支援を受けられるのかは確認ができていない。自宅避難の方にどう支援を届けるのか、福祉避難所への避難の方法を確認している状況。

(遠藤委員)

- ・10月1日に西部特別支援学校に福祉避難所を開設する予定。家族の了解が得られればモデルケースとして避難支援ができると良い。

(事務局)

現状、安否確認システムでどう情報伝達ができるのかがメインになるが、当事者で協力いただける方がいれば参加したい。清水委員、そういった訓練に参加可能な方はいるか？

(清水委員)

- ・聞いたことがない。

(事務局)

できるかできないかということも含めて検討したい。災害ワーキングは内閣府訓練の後、11月頃まで開催予定。

### 5 その他

(事務局)

令和4年度医療的ケア児等支援者養成研修について事務局より説明

- ・医療的ケア児者の受け入れの裾野を広げる目的で実施。10月、11月で実施。開催方法は会場とZoomで検討しているがコロナの感染状況により検討していく。

(遠藤委員)

- ・事業団30周年記念事業の案内

(清水委員)

- ・コロナ陽性者の家族になった体験について。  
コロナの感染は災害と同じ状況。普段、サービスをうまく利用している場合は大変になる。災害と同様に関係機関で連携できると良いと感じた。
- ・特別支援学校で呼吸器の子のモデル事業について  
対象者について確認をした。  
体調が安定、安定した登校、保護者の十分な付き添い、自発呼吸ができる、という条件と隣接したこども病院がバックアップすることで中央特支の子が対象になった。  
西部特支でも対象になると良いが、実施計画を作っている段階。
- ・県の医療ケア支援センター  
就学前の子供の相談が多いという話を聞いた。

(岡崎委員)

- ・地域包括ケアシステム推進連絡会で「全世代型地域包括ケアシステムの構築」という言葉が出てくる。今後包括ケアシステムに医療的ケア児をリンクさせるのか、本支援協議会単独で動くのか確認したい。

(事務局)

検討していく

(雨宮委員)

- ・特支の先生と進路に関する連絡会がある。高校生の進路状況だが、生活介護の事業所受け入れが難しくなっており、何か所か併用することになる。定員遵守がどうなっているのか確認してもらいたい。

(事務局)

確認する